

給水管（引込管）

国~~道~~道用占用工事完了写真

工事完了後速やかに **2部**提出

1. 着手前（2方向以上、全体が写るように）
2. 完了（2方向以上、全体が写るように）
3. 掘削工（出来形、舗装版切断工と掘削中の写真は必要ないものとする）
4. 配水管状況（既設配水管の深さがわかる写真）
5. 推進工（側溝下の施工を伴う際は必須）
6. 水道管布設工（浸透防護スリーブを巻き、布設後の写真）
7. 砂埋戻し工（給水管上10cm埋戻し、**填圧中**と出来形の写真）
※布設の深さによって埋戻しの回数は前後するものとする
8. RC-40埋戻し工（20cm埋戻し、**填圧中**と出来形の写真）
9. 埋設クロスシート（管上から300mmの位置）
10. RC-40埋戻し工（20cm埋戻し、**填圧中**と出来形の写真）
11. RC-40埋戻し工（仮復旧厚まで、**填圧中**と出来形の写真）
※埋設の深さによって埋戻しの回数は前後するものとする
※一度の填圧は20cm以下とする
12. 仮復旧工（この時もスタッフを当てる）
 - ・プライムコート散布状況及び散布完了
13. 舗装本復旧工
 - ・路盤工（不陸整正(転圧)中と出来形の写真、すき取り工の写真は必要ないものとする）
 - ・プライムコート散布状況及び散布完了
 - ・粗粒アスファルト他（2層以上の場合）
 - ・タックコート散布状況及び散布完了（2層以上の場合）
 - ・密粒アスファルト他※その他舗装構成によって内容は変更するものとする
14. 交通整理員（全体の規制状況がわかるもの）
15. 工事看板（施工箇所、50, 100, 200m 地点の工事予告）

その他注意事項

1. 出来形の写真では、十分に填圧したものを準備すること。(RC-40の埋戻しでは、表面が粒立っていると填圧不足を指摘されるので、十分に填圧すること。)
2. 設計通り角を出して掘削をした写真を撮ること。(掘り残しがないように。)
3. 出幅が分かるようにスタッフを当て、撮ること。
4. 黒板の内容が占用図面と違いが無いか確認して撮ること。(黒板の内容が読みにくい場合は写真の横のスペースに図示又は説明書きをすること。)
5. 側溝下を施工する場合は、必ず推進工法にて施工し、写真を撮ること。(ためき掘りは禁止)
6. 管布設時だけでなく、舗装本復旧の際にも保安設備をしっかりと配置すること。交通誘導員は、交通誘導に専念させ、作業員として従事させないこと。また、工事看板は、保安設備図通りになるよう全て準備すること。(50, 100m 地点の工事予告は看板ではなく標識を使用すること。200m 地点はどちらでも可。)
7. プライムコート、タックコート(2層以上の場合)の施工写真が必要です。散布状況写真には、噴霧器を使って施行している写真、散布完了写真には、全体にムラ無く塗り終わった写真が必要です。(表面だけでなく、側面にもしっかりと散布すること。)
8. 車道と歩道など、舗装構成の違うものは、舗装構成ごとに写真が必要。
9. 上記の注意事項を守らず施工したり、写真の撮り忘れがあると施工をやり直してもらおう可能性がありますので、十分に注意して施工及び、写真を撮ること。
10. 工事施工予定日は決まり次第、工務課に連絡すること。

※今後も道路管理者からの指示により、その他変更がある場合がございます。
あらかじめご了承ください、ご協力をよろしく願います。